

令和3年11月18日

教職員、学生の皆様

新型コロナウイルス感染状況の改善に伴う本学の新たな対応

学長（危機対策本部長） 仁科弘重

本学の新型コロナウイルス感染確認者の累計は、本日現在、学生32人、教職員7人であり、感染者が多い松山市にメインキャンパスがある大学としては、感染者をかなり抑えることができています。このことについては、教職員、学生の皆様のご努力に対して、学長（危機対策本部長）として心から御礼申し上げます。

さて、9月30日に「これまで1年半の対応と、コロナウイルスとの共存に向けた新たな対応へ」という学長メッセージを発信させていただき、「大学としての日常の活動をできるだけ取り戻していく」という方針の下、新たなBCP表もお示しし、警戒レベルを「2（イエロー）」として諸活動を行ってきました。その後、ご存知のように、10月、11月と、コロナウイルスの感染状況は、県内及び全国で急速に改善しました。

この状況を受け、先週から今週にかけて危機対策本部会議などの諸会議を開催し、今後の対応を検討した結果、ここしばらくの間は、警戒レベルを「1（ライトイエロー）」とすることとしました。今後、感染状況が再度悪化する可能性も否定できませんが、それまでは「できるだけ、本来の活動を取り戻す」ことにしたいと思えます。ただし、「感染防止対策（マスクの着用、十分な換気の確保、ソーシャルディスタンスの確保、手指消毒など）」は、今後も徹底してください。これは、感染状況が再度悪化した場合でも、本学への影響を最小限に止めるためにも、是非、お願いいたします。

今後、「第4クォーター期間の授業」に関する方針をお知らせしますので、対応のほどお願いいたします。なお、教職員の皆様には、「出張・研修、私事による移動、来客者との打合せ」「会食（食事会・懇親会）の取扱い」については、当面の間、令和3年11月12日付メールの取扱いを継続することとします。

教職員、学生の皆様には、今後とも、感染防止対策を徹底していただくようお願いいたします。